

地域スポーツとしての柔道の発展可能性について

河原 聡 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 菅井 京子

柔道 柔術 地域スポーツ

1. 緒言

柔道は、明治時代に柔術から派生し発展してきたものである。柔術は、戦国時代や江戸時代の合戦などで武士の小太刀、脇差などに対して素手で敵の攻撃に応じて相手を倒す格闘術及び護身術として使われていた。一方、柔道は、明治維新以降に柔術の実用性が減少していた中、1882(明治 15)年に嘉納治五郎によって考案された。今日、柔道は学校授業や課外活動、町道場のスポーツ活動などでも行われている。

本研究では地域スポーツとしての柔道の発展可能性について考察する。

2. 研究方法

研究で用いる資料は「柔道」¹⁾、『地域スポーツの創造と展開』²⁾、『嘉納柔道思想の継承と変容』³⁾ などである。また現在、滋賀県大津市にある柔道クラブを対象に現状の調査も行う。

3. 考察

江戸時代から明治時代に移り変わることで戦乱のない時代になり、柔術の意味は次第に薄れ、相手に対しての礼儀や作法などに重点が移り、柔道が生まれた。柔道は、柔術にあった危険な技が整理されたことで、人々に親しまれるスポーツとなったのである。柔術の投げ技、固め技は、一連の動作に止めを刺すための「打つ」「蹴る」「突く」があった。柔道の投げ技、固め技は、止めの動作がなくなり、投げ終える前に相手の後頭部を支える思いやりの動作が加えられた。このことによって危険性は減った。しかし、柔道の技の本質にはやはり柔術にあった危険な要素が残っている。残っていると言うより

はむしろ、この危険な要素が柔術から柔道が受け継いだものである。要するに、柔道は格闘技なのである。その証拠に、投げるにしろ固められるにせよ受ける側は必ず痛みを感じる。そして、その痛みがあるからこそ、互いの痛みを知ることによって思いやりや優しさの心が育つのである。

学校の授業や選手育成クラブの等質なグループとは違い、地域スポーツでは、異質な者の集まりであることが多い。それが地域スポーツのおもしろさであると理解することができる。そのため、地域スポーツでは人間関係が特に重要であり、思いやりや優しさはその核となる。家族や隣人、地域住民が互いの目標のために1つのグループとなって協力し、練習することで楽しい地域スポーツ活動ができるのである。

また、柔道でも相手への思いやりや優しさは欠かせない重要な要素である。私たちは、柔道にある優しさや思いやりの特性を活かすことで、老若男女も混ざった地域スポーツとしての柔道を楽しむことができるのである。ここに、地域スポーツとしての柔道の発展可能性があると考えられる。

引用・参考文献

- 1)老松 信一(1987)柔道：最新スポーツ大事典 大修館書店 pp.417-424
- 2)厨 義弘、大谷 善博(2001)：地域スポーツの創造と展開 大修館書店 4版
- 3)永木 耕介著(2008)：嘉納柔道思想の継承と変容 風間書房